

令和5年度 学校経営方針

芦屋市立朝日ヶ丘小学校
校長 高橋孝子

1 所信

- ・子どもたちを中心に据えた温かみのある教育の推進
- ・全職員がともに、心を合わせ、知恵を出しあい、支えあう、チームワークを大切にする学校
- ・安心・安全な学校づくり
- ・信頼される学校づくり、コミュニケーションと情報共有
- ・子どもたちの育ちを支える学校・家庭・地域との連携

2 基本姿勢

学校・家庭・地域がそれぞれの教育力を発揮し、連携して、子ども一人ひとりに生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を培う。

- (1) 教育の基礎基本を大切にして、安心し、落ち着いて過ごせる学校にする。
- (2) 学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。
- (3) 一人ひとりをかけがえのない存在として認め、その良さや可能性を伸ばし、自尊感情を高める。
- (4) 体験活動や読書を大切にし、心豊かな子どもを育てる。

3 学校教育目標・めざす姿

(1) 学校教育目標

「共に学び 支え合う子ども」の育成

(2) めざす子ども像

- ・自分の思いを伝えようとする子ども
- ・人の気持ちを考えようとする子ども

(3) めざす学校像

[学び合い支え合う学校]

○だれもが居心地のよい、安心・充実・笑顔のある学校

○聴き合う、学び合う活動が充実した学校

- ・確かな学力を育み、共に学び高め合う授業づくり
- ・いのちと人権を大切にする心の教育の充実
- ・子ども理解を第一にしたぬくもりのある生活指導の推進
- ・子どもが主人公となる特別活動の充実
- ・たくましい心身を育む体力づくりと健康教育の充実
- ・読書活動の推進と充実
- ・震災の教訓を生かした防災教育の推進
- ・地域とともに育つ学校

(4) めざす教師像

- ・使命感を持ち、自律性と責任感を持つ教師
自分を磨き、自己変革に努め、確かな学級づくり・学習指導をする
互いに切磋琢磨し、同僚性が発揮される職場づくりに努める
- ・さわやかでぬくもりのある教師
子どものよさや可能性を見つけ、ほめる
子どもの言動を理解し、共感できる（子どもの内面理解に努める）
子どもに優しさと厳しさを持つ
- ・保護者との関係を大切にする教師
子どもの良さと課題を共有する
学校と家庭で連携した指導ができる

[そのために]

- ☆ 子どもと心で接する教師でありたい
- ☆ 何事も「子ども中心」で考えて行動する
- ☆ 「相手のことを考える」という視点での声掛け
- ☆ 「抱え込んでいないか」という視点での寄り添い
- ☆ 保護者との連絡を密にとる

4 指導の重点・努力目標

- 学校・家庭・地域がそれぞれの教育力を発揮し、連携して、子ども一人一人に「生きる力」を培う。
- 教育の基礎基本を大切にして、安心して落ち着いて過ごせる学校をつくる。
- 学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。
- 一人一人をかけがえのない存在として認め、そのよさや可能性を伸ばし、自尊感情を高める。ほめる。認める。
- 体験活動や読書を大切にし、心豊かな子どもを育てる。

(1) 確かな学力を育み、共に学び高め合う授業づくり

- ・個を生かすと共に、基礎基本の定着を図る授業研究づくりをすすめる。
- ・ねらいを明確にした多様な対話の追求
- ・ICTを活用した授業づくりや教師間での連携
- ・合理的配慮に基づいた特別支援教育の充実を図る。
- ・チューターや新学習システムを活用したきめ細かな指導の充実を図る。
- ・3・4年の外国語活動、5・6年の外国語を充実させる（小中の連携）
- ・明るく落ち着いた学習環境を整える

(2) いのちと人権を大切にする心の教育の充実

- ・共に生きる社会を目指す人権教育を推進する。
- ・楽しく学び、感性に訴える「特別の教科道徳」を充実させる。
- ・豊かな情操を育む体験活動の推進

(3) 共感的な子ども理解に立ったぬくもりのある生徒指導の推進

- ・いじめを絶対に許さない学年経営・学級指導をすすめる。

- ・ 基本的生活習慣の定着を図る。
 - ・ 互いに認め合い支え合う学年・学級風土を創造する。
 - ・ 不登校や生徒指導事案には迅速にチームで対応する。
- (4) 児童が主人公となる特別活動、あさひ活動の創造
- ・ 仲間とつながり、共に創りあげていくあさひ活動
 - ・ 子どもが主体的に活動する学級活動・学校行事を創造する。
- (5) たくましい心身を育む体力づくりと健康教育の充実
- ・ 仲間とつながり、体を動かすことや運動の楽しさを味わわせる。
 - ・ 体育的行事を充実する。
 - ・ 性教育、食に関する教育などの各課題教育の充実を図る。
 - ・ 自尊感情の育成に心がける。
- (6) 読書活動及び図書館教育の推進と充実
- ・ 計画的・継続的な学校図書館の有活用及び読書活動の取組
 - ・ 学校図書館の環境整備を図る。
 - ・ 芦屋市立図書館と連携した活動の推進
- (7) 震災の教訓を生かした防災教育の推進
- ・ 命の大切さを実感し、自分の命を自分で守ると共に、支え合って共に生きる大切さを学ぶ防災教育の充実を図る。
 - ・ 安全指導の徹底及び防災に対する意識の向上を目指す。
 - ・ 地域と連携した安全教育の推進
- (8) 教職員・保護者・地域・専門機関も、共に教育に関わる学校
- ・ 教職員が一役一人制により持てる力を最大限発揮できる校務分掌の配当。
 - ・ 地域と連携した子どもたちの健全育成及び子どもの居場所づくりの推進（三者連携推進委員会）
 - ・ あいさつ運動等で学校、家庭、地域が連携した活動を推進する。
 - ・ チーム学校としてそれぞれの立場から協同して子どもに関わる。
- (9) 教職員の勤務時間適正化に向けての環境整備
- ・ 校務や業務の I T 化を充実して、教職員の教育業務の負担軽減を図る。
 - ・ 組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む。
 - ・ 週 1 回の「my 定時退勤日」を設定し 9 割実施を図る。
 - ・ 教職員の勤務時間を的確に把握し、週休日の振替や勤務時間の割振変更を適正に行う。

5 教育課程の編成において

- (1) 教育目標を具現化する学年・学級経営案の策定
- ・ 年度当初に学年・学級経営案を策定し、学期ごとに総括する。
- (2) 児童の生活に合った日課表・ブロック時間（100 分）・学校行事等の実施
- ・ 朝のスキルタイムや 2 枠連続の授業編成などが組めるように、日課表を策定する。
 - ・ 学校行事は、児童の実態に合わせて変容させていく。
 - ・ 学期ごとに授業時数を点検し、授業時間数を確保する。
- (3) 教科等の年間指導計画の策定と見直し

- ・策定した各教科の年間指導計画を、随時見直し、より児童の実態に即した教育的効果のあるものにする。

(4) 教育目標を具現化する学校環境の整備

- ・毎月実施する安全点検により、良好な学校環境を整備する。

(5) 「子どものための授業」を目指した授業研究

- ・学び合い、高め合いの具現化と、聴き合う活動の充実
- ・児童の実態に応じた「学力向上支援プラン」の推進